

「学校図書館」の問題点と現状



小さい学校はなぜ読める本が少ないの？

- 学校の規模や地域による蔵書数の格差
- 本の選定・廃棄・更新が適切に行われていない

教科書はデジタルなのになぜ読書は紙なの？

- 紙の本や参考書は重い
- PCと本で机がいっぱい

不自由があるとなぜ読書ができないの？

- 障害のある子供は紙の本にアクセスできない
- 日本に住む母国語が日本語でない子供が本を読めない

「学校デジタル図書館」でユニバーサルな教育を実現しよう

- 真の「教育の機会均等」を実現(学校教育に関する教育基本法第三条)
- GIGAスクール構想の促進
- SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の促進

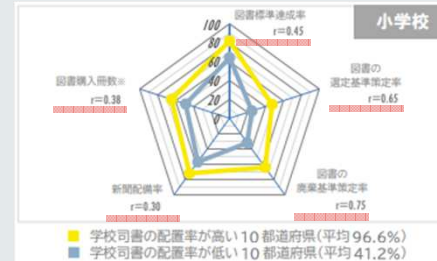
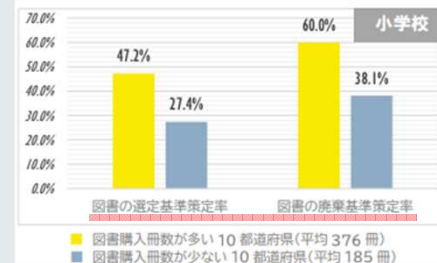
学校図書館整備計画＜図書整備状況＞

※概要資料 第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」より

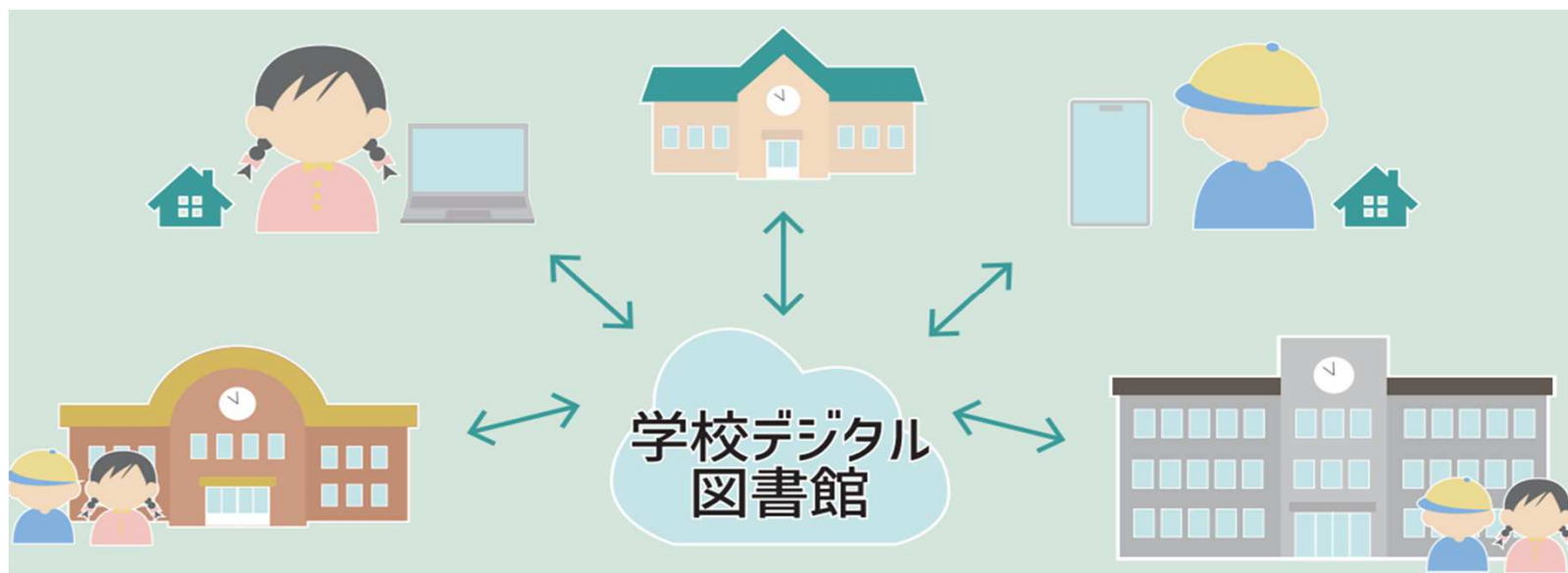
図書整備率はいつまでも未達のまま

小学校 66.4% → **71.2%**
中学校 55.3% → **61.1%**

※学校図書館図書標準達成校の割合 平成27年→令和元年



「学校デジタル図書館」とは？



小さい学校も
大きい学校も
たくさんの本が
読める

いつでもどこでも
必要な時に
すべての本に
アクセスできる

不自由があっても
すべての子供に
アクセシブルな
読書環境を提供

安定財源により
持続的に運営
される図書館

本の選定・廃棄・更新が
低コストで柔軟に
運用できる

なぜ「学校デジタル図書館」が必要？

すべての子どもを取り残すことがないユニバーサルな読書体験を

教育のデジタル化・格差解消の促進

- 学校規模や地域格差、世帯収入による読書機会・環境の格差を是正
- デジタル化に伴う読書バリアフリー環境の拡大
- 安定財源による持続的な運営が可能
- GIGAスクール環境を基盤に小中学校の教育インフラを活用・促進

デジタル図書ならではのメリット

- 紙の本と比較してより低いコストではるかに多くの本を蔵書可能
- 本の選定・廃棄・更新が柔軟
- インターネットの情報として本は親が安心してアクセスさせられるメディア

「学校デジタル図書館」仕組みのイメージ（案）

